

提 案 書

平成26年9月25日

埼玉県教育局教育総務部教育政策課長

所 属： 加須市立加須東中学校
職 氏 名： 教諭・平井 薫
連絡先の電話番号：0480-65-2206

埼玉県教育委員会教職員提案制度募集要項に基づき、次のとおり提案します。

タイトル：「東中まごころプラン」生徒の健全育成に向けた教育相談活動の工夫
実践事例の要旨： 「東中まごころプラン」は、生徒同士、また、教員が生徒のよい面に目を向けて、生徒の自己存在感や自己肯定感を育む取組である。プランには「まごころコール」「まごころの花束」「まごころ通信」の3つの取組がある。 「まごころコール」は、保護者との連携、「まごころの花束」は、同学年生徒同士の良好な人間関係を築き、「まごころ通信」は全校生徒への啓発の役割を担っている。
実践に至った背景： 生徒の健やかな成長のためには保護者との連携は欠かせないものである。しかし、学校から保護者への連絡のほとんどは生徒の問題行動についてであったので、保護者との良好な関係を築くことに対してマイナスになっていた。
実践のねらい及び内容： 1 ねらい (1) 生徒のよい行いを積極的に取り上げ、生徒の自己存在感・自己肯定感を育む。 (2) 保護者への電話連絡やまごころ通信での発信等を通して「まごころプラン」を推進し、学校と保護者との信頼関係を築き生徒の健やかな成長を支援する。 2 東中まごころプラン (1) 「まごころコール」 生徒の良い行動や活躍している様子を保護者に電話で伝え、保護者からも家庭で声かけをしてもらうことをお願いする。生徒の情報収集は、全職員の協力のもと行う。担任以外の職員が生徒に関する情報を担任へ伝える手段として「まごころコール情報カード」を利用する。その流れは以下のとおりである。 ア) まごころコール情報カードに記入後、直接担任へ渡す。 イ) 担任は電話連絡後にコール日を記入して教育相談担当に渡す。 ウ) 教育相談担当は渡されたカードを保存用ノートに貼る。

(2)「まごころの花束」

毎月末の朝の会で、生徒に「今日はまごころの花束記入日」であることを連絡してその月に自分の周りで見かけたよい行いや相手にしてもらって嬉しかった行い・言葉をハート型の紙に書かせて集める。この時、「～を拾ってくれた」「貸してくれた」ではなく、何かの活動を通して良い行いだと思ったり、嬉しかったりしたことを記入させる。カードは、廊下にコーナーを設け、美術部生徒の協力で台紙を作成してもらい、学年の掲示係に掲示を担当させ学期に1回貼りかえている。この日は、学校生活アンケートも実施し、生徒の悩みや問題等の早期発見・早期解決の手がかりとしている。生徒の回答によっては、その日のうちに生徒と担任、または、生徒が希望する担当者（他の職員やさわやか相談員）で二者面談を実施する。アンケート結果の集計用紙を各学年教育相談担当に提出し、教育相談担当がパソコンに入力後、教育相談部会で結果を配布し、教育相談ファイルを各学年で回覧する。

(3)「まごころ通信」

学期末に、学年掲示したカードの中から各学年15枚程度を通信にまとめる。それを全校生徒に配布し他学年や家庭で生徒のよい行いを共有する。この時、個人名はアルファベットに変える。

実践の成果や効果：

生徒の問題行動で電話する前に、生徒のよい面を保護者に電話し話していたことで、そのような電話をしていなかったときに比べ、良好な関係を保つことができた。

年度当初は保護者が新しい担任に対して少なからず不安を抱いている。4月中に第1回のまごころコールを担当が実施し、全家庭に担任としての挨拶をしたが、保護者の不安を軽減し保護者との心的距離を縮めることができた。

また、平成24年度末の生徒対象のアンケートで、約9割の生徒が「まごころの花束カード記入日」の継続を望んでいることが分かった。生徒は廊下に貼りだされたカードを通して自分のことを認めてもらったり、ほめてもらったりすることに喜びを感じ、「これからも続けたい」と今後の活動意欲にもつながる回答が少なくなかった。また、周囲のよい行いを意識したことから「自分もそういう人になりたい」という目標となるモデルを得ることもできた。

実践期間：

平成24年4月～平成26年

実践事例のセールスポイント：

まごころの花束カードを通して、口では言えないこともカードに書くことで、生徒は自分の気持ちを素直に表現することができる。

<実践事例を他校でも活用できる方策等>

*他校で導入する際のポイント：

- ・生徒の良い面を伝えるために、様々な電話連絡の機会を活用する。例えば、保健室からの報告を受けての連絡や欠席した日の連絡時、場合によっては生徒が毎日書いているデイリーライフに記入し、保護者に確認後押印をお願いすることも可能である。

<p>る。また、行事等で保護者に直接お会いしたときに積極的に話しかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者は学校での子どもの様子を知らないことが多いので、行事に向けての取組の様子や頑張っていることを知らせると来校者も増える。 	
<p>*失敗しないための秘訣：</p> <p>生徒指導上の問題が起こる前に最初のまごころコールをすることが鍵になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の「まごころコール」は4月に実施する。 ・電話をすることが目的にならないようにする。 ・「まごころの花束カード」を記入させるときは、文例を提示し、物の貸し借りや拾ってもらった等の記入で終わらないようにする。 	
<p>*こうすれば自校よりも高い効果が得られるという方策：</p> <p>部活動顧問と担任の連携</p>	
<p>*その他：</p>	
<p>公的支援（予算措置や教職員の加配等）への要望：</p>	<p>実践元の所属長確認 動画や写真の使用許可 <input checked="" type="checkbox"/></p>